

## 2003 年世界無線通信会議終わる

JA3AA 島 伊三治

6月9日から7月4日までジュネーブで開催されていたITUのWRC-03が終了しました。世界145ヶ国、約2,300名が参加。我が国からも総務省をはじめ電気通信事業者、放送事業者、JARL等の約100名が代表団を構成し参加していました。ご存知のようにJARLでは、7MHz帯に於いて、7,000-7,300KHzの300KHz幅をアマチュアバンドに確保したいとのことでしたが、最終的には目標に少し届きませんでした。第1地域(ヨーロッパ・アフリカ)と第3地域(アジア・オセアニア)のアマチュア業務に、7,000-7,200KHzが分配されることになり、2009年3月29日から使用可能となりました。アマチュアバンドの周波数帯が広がったのは、1979年のWARC-79で、10, 18, 24MHz帯が増えて以来24



年振りのことであり、素直に喜ぶべきだと思います。また、モールス符号の送受信も国際的な要求でなくなり、それぞれの国の主管庁に委ねられることになりましたが、これは世界の流れを見ていると致し方ないと思います。実はそれにも増して注目したいのは、コールサインについてです、サフィクスを最大4文字にすることができるなど、非常に柔軟性が認められるようになりました。個人的には、コールサインの再割り当ては、できれば止めてもらいたいと思っていますので、アマチュア局が右肩上がり急増の1980年代にこれが認められていると良かったと思います。プリフィクスで未使用のJB、JC、をサフィクス4文字用として4アマ局に割り当てれば混乱も少なく、受け入れられるだろうと勝手なことを考えています。NO-CODE、サフィクス4文字と時代の変化を大きく感じるWRC-03でした。

## ゲルマラジオの完成見本

JP3AZA 河田 至弘

今回の羽曳野市における「ファミリー電波教室」で製作したゲルマラジオ用に配布した同じ部品を使用して完成見本を製作してみました。

### 使用材料

手持ちのものも流用しましたが、なるべくは市販品あるいは簡単に入手可能な物にしました。

1. ケースの材料: 東急ハンズで切断済の板4枚を購入してもくねじ8本で組み上げる事にしました。
2. パネルの材料: 手持ちのアルミ板を使用したのが写真のような感じになりましたが特に何でもよく塩化ビニールの板、厚紙、プラスチック板などでも使用できます。
3. ダイアル: これはありあわせの円形プラスチックの板に穴を開けて使用しています。

### 感度測定

出来上がったゲルマラジオの性能を測定してみました。結果は以下の通りです。

使用測定器: アンリツ MG654A 標準信号発生器  
測定判断は聴取限界をイヤホンで聞いてそのときの標準信号発生器の出力信号レベルを受信感度として記録しました。

### ゲルマラジオの電気的特性

受信できる周波数範囲: 650KHz~1800KHz  
受信感度: 50~100mV(周波数により多少異なる)  
測定は私の耳の聴取限界ですから若い人と比べると少しは感度が悪くなっているようです。また、周波数によって感度差があるのは同調回路の実効Qが変わるためでしょう。結果は予想値とかけ離れてもいないのでこんなものかなと言うのが実感でした。

## 海外旅行の思い出

JA3TXZ 印田光徳

1992年10月9日-12日、大阪業余無線電友好訪中団(J13ZAGメンバーを中心とする9人)は、上海市体育運動委員会を訪問しました。11日には祝嘉銘教授の主催の公式晩餐会と友好提携式があり、このことはIHOCニューズレターVol6(1993年)に掲載されました。写真上:10月10日にBA4AAシャックで撮影。前列左からJF1VDR, JR3MVF, JA3DAU, BY4ZAA, JA3UB, JA3TXZ、後列JA3IG, JA3DYU, JA3NHW, JK3IYB, BA4AA。  
写真下: 同日上海師範交歓会でJR3MVF BY4ZAA。



## 出会いの不思議

JA3UB 三好 二郎

今年も戦後ドイツのアマチュア無線再開の地である南ドイツのボーデン湖畔の町でアマチュア無線の展示会とミーティングが開催されました。30カ国から180のグループが展示や店、フォーラムを持ち入場者総数は一万人を超えていました。日本からのビジターはアイハウスラジオクラブの島本さんと私に加えて常連JA9の三田村さん等数人のみであったようです。内容は世界各地のハムフェアと似たようなものですが写真でその様子をご覧ください。開場と同時にガールフレンド達が待つ?YLコーナーへ直行、日本から持ってきた真空管を渡して第一目的は達成しました。今年からは新しく出来た会場でツエ



ッペリンの博物館や工場のすぐ隣です。昔活躍した飛行船ツエッペリン(我々無線家はこのツエッペリンで用いられたZeepアンテナを今でも使うことがあります)は数年前に復活して遊覧飛行等にも利用されていて飛行しているのを度々目撃することができました。数年前に博物館と工場を見学をしたことがあります。船体はグラスファイバーと硬化プラスチックの骨組みに布を貼り付けたバルンの下にキャビンが付いたような構造です。ここはスイス、オーストリアとの国境近くで携帯電話も場所によってアクセスポイントがスイスになったりドイツになったりします。さて会場に戻りますと中にはレストランもあり小ミーティングを持つこともできます。クラブや国のブースを覗くと大抵旧知の友人と出くわします。またコールサインプレートを胸につけたりコールサインの入った帽子をかぶってうろついています。「やあ! 交信したことがあるなあ」とか「お前JA3IG YuuやJA3BOA Hideoを知っているか? 俺はHB9AFI Kurtだ」なんて声がかかってきます。それに答えて「もちろん、知ってるどころかYuuは同じクラブのメンバーでHideoは俺がアマチュア無線のヴィールスを植えつけた奴だよ」とまたここで出会いの不思議さを感じながら楽しいひと時を過ごします。一方携帯無線機を常に持ち歩きこの会場まで道中一緒に来たドイツの友人達とは会場内で別々に行動しながら常に連絡が取れるようになっているので「お前に会いたいと捜している人がいるよ」とか「面白いものを見つけたからこっちのブースに来ないか」と言う具合ですが、その交信を聞いて別の友人が声をかけてくる、そこへ友人の知り合いがブレイクインしてきてまた輪が広がりました。こうして出会いを楽しみながら日本ではあまり見ることのない東欧諸国の無線機やアマチュア無線家が工夫を凝らして作ったモノを見て歩きました。

(Friedrichshafen Ham Radioの写真は2ページ)

## メンバーのシャック紹介 JA3CZY

電波は国境、宗教、老若男女など、区別無く世界を駆けめぐります。ハムを通じて世界中に数多くの友人を持つことができます。しかもハムで得た友人たちとの絆は、時には他のどの友人たちよりも深く感じます。ハムって素晴らしいですね。さて、拙宅の QRP 設備を写真で紹介します。

写真右 私無線局です。設備は IC-756pro2 と FL-2100Z です。

写真右上 アンテナのクローズアップです。上から 6el for 10m、2el for 75m、5el for 15 and 20m です。この 5el Yagi はドライブエレメントに 40m coil があります。

写真右下 Dayton 2003 でのスナップ、JA3 の 4 人衆です。



# HAM RADIO

Die Nr. 1 in Europa!  
Internationale Amateurfunk-Ausstellung  
mit 54. Bodenseetreffen des DARC  
**27.-29.6.2003**  
Neue Messe Friedrichshafen



## 大阪国際交流センターラジオクラブ JI3ZAG

Web: <http://ja3.net/ihouse>

### Newsletter

[http://www.ja3.net/ji3zag\\_nl](http://www.ja3.net/ji3zag_nl)  
会報を自由にダウンロードすることができます

### ロールコール

毎週土曜日 9:00JST @14.160MHz

### 月例会

大阪国際交流センター  
毎月第 2 金曜日

## 編集後記 JA3AER 荒川泰蔵

電子 NL もやっと第 3 号の発行に漕ぎつけました。何事も 3 回続けば軌道にのるだろうと言われていますが油断は禁物です。今回は JA3CZY 三浦さんと、JA3TXZ 印田さんから初めての投稿を頂いて紙面を埋めることが出来ました。「メンバーのシャック紹介」は連載にしますので、各自ご自慢のリグやアンテナのご披露をお願い致します。

